



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第12号(2008年5月23日)

「アナリストの繁忙期」

5月のこの時期は、前期の決算発表のピークになっており、多くの企業がこの時期に決算を発表しています。スパークスで企業調査を行っているファンド・マネージャーやアナリストにとっても、一年の中で最も繁忙な時期になります。今回はこの時期にどれくらいの回数の企業調査を行い、そこからどのように厳選して投資しているのかということについてご説明させていただきます。

まず、決算発表のピークということですが、日本に上場企業が4,000社近くある中、3月末が決算期の企業は、全体の約7割、2,800社弱あります。これだけ多くの企業が短期間に一斉に決算発表を行いますので、どの企業に訪問するかを決めるだけでも大変になるくらいに企業調査の回数が増加し、忙しくなるわけです。また、これだけ多くの企業の情報が短期間に発信されるため、株式市場が大きく動く可能性もあり、そのような観点からも株式投資をする上で重要な時期と言えます。

このような事情から決算発表のピークと言われるのですが、たとえば先週の5/12(月)~5/16(金)の一週間で、スパークスのファンド・マネージャーとアナリストは何社のミーティングに参加していたのでしょうか。その数は実に133社にも及びます。また、業界全体の動向を把握するために、日本企業だけではなく海外の企業なども調査対象に含まれています。以前、スパークスは年間4,500回以上の企業調査を実施していると申し上げましたが、通常の調査回数のペースを大幅に上回る回数を、この時期に行っており、非常に忙しい時期だとお分かりいただけると思います。

従って、この時期は、アナリスト達は一人で一日に何社も企業調査を行っており、アナリストが全員外出中ということもあり、忙しさとは正反対に会社の中は静かな時期でもあります。

スパークスでは、このように数多くの企業調査を行う中で、徹底的に理解を深めることができた企業の中から投資する企業を選別しているのですが、その源泉は脚で稼ぐ現場重視の調査です。この調査に基いた運用が、これがまさにスパークスの努力と知力が凝縮された運用と言えるのです。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。